

No.71 欧米列強の侵略と条約改正	年 組
	氏名

/8問

次の () に当てはまる言葉をそれぞれ書きましょう。

- 19世紀後半、欧米諸国では(①)主義が急速に発展し、産業が成長した。
- (①)主義が発展した欧米列強は、資源や市場を求めてアジアやアフリカなどに進出し、軍事力によってこれらの地域のほとんどを次々と植民地にしていった。この動きを(②)主義という。
- 日本が、欧米と国際的に対等な地位を得るうえでは、(③)の改正が最も重要な課題であり、その実現のために欧米的な法律の整備などの近代化政策を押し進めた。

- 外務卿(大臣)の井上馨は、鹿鳴館で舞踏会を開くなどの(④)を採りながら(③)改正交渉に臨んだが、失敗した。



(⑤)

- 1894年、(⑤)外務大臣は、イギリスとの間で日英通商航海条約を結び、(⑥)の撤廃に成功した。

- 1911年、(⑦)外務大臣は、アメリカとの条約に調印し、(⑧)の完全な回復が実現した。



(⑦)

【解答】

- ① 資本
- ② 帝国
- ③ (不平等)条約
- ④ 欧化政策
- ⑤ 陸奥宗光
- ⑥ 領事裁判権
- ⑦ 小村寿太郎
- ⑧ 関税自主権

日本が欧米諸国と対等な地位を得るために行ったことを整理しよう。

